

# WILL がある人は素敵だ

「正解はわからない。」

迷うことはあるけれど、自分の想いに耳を傾けて、小さな一步から動き出してみる。

楽しい人生でありたい、誰かの役に立ちたい、そのまんまの想いを信じてみる。

「私」に軸を置いて自分の道を切り開く“WILLのある人”がここ長野にいます。

「私」が本当にしたかったことってなんだろう？

彼女たちの“WILL”をヒントに

Biotope的「ワタシ活躍推進」はじめてみませんか？



長野市で初の

自宅型病児保育サービスをスタート

Part 1

岩間千佳さん

NPO法人えんまる代表

私のルール  
*My rules*

ないものは作る！

「どうして誰もやっていないの？」という疑問をそのままにしないで、「じゃあ私がやる！」と自分で動きます。今動ける人が一步動けば、社会は変わるはず！

常に未来志向でいること

今この社会に何が必要か、そのためには何ができるのかを常に考えて行動しています。保育士として子どもに関わることはやりきったので、別のやり方でより良い子どもの未来を作るために努力しています。

「あなたはひとりじゃない」と

相手に寄り添う

ただサービスを提供するだけでは、根本的な解決になりません。まずは、日々の積み重ねで信頼関係を築くことから始めます。



いま動き出せる人が  
一歩踏み出せば、  
世の中は変わる。

「スキルのある女性が、出産や子育てで仕事を辞めざるを得なかつたり、肩身の狭い思いをしなきやいけないのはもつたないないです！」

千佳さんは、長年保育士として勤務する間に「働くお母さん」の声を聞き続けた経験から、自宅型病児保育のサービスを立ち上げました。

「泣きながら会社に謝るお母さんを何年も見えてきました。私が保育園でずっと働いていても、この問題は解決しない。誰もやらなければ私がやるしかない！」と思い、NPOの立ち上げを決めました。

現在は、病児保育のほかに、ひとり親世帯の孤立を防ぐための「えんまるこども宅

食」事業もスタート。

「ただ食べ物を届けて終わりではなく、信頼関係を築いて、その先のサポートになげていくことを目的にしています」

千佳さん自身も、子育てをしていく中で、助けを求められずノイローゼになってしまふ体験がありました。自宅を解放して行っていたピアノ教室で、生徒のお母さんたちと悩み事を話す時間に救われたと言います。「仕事も育児も完璧であることを求められてしまう社会のなかで、お母さんたちが『助けて』と言える場所を作りたいんです。埋もれている人たち見つけて、「あなたはひとりじゃない」と手を差し伸べ続けたいです」



部員  
募集中! //



## 3分で学ぶキャリア理論

### プロティアン・キャリア (変幻自在なキャリアづくり)

「プロティアン・キャリア」とは、アメリカ心理学者であるダグラス・ホール (Douglas T. Hall) によって1976年に提唱された理論です。働く私たち自身の自己実現や幸福の追求のために、環境の変化に応じて柔軟に自分を変化させながら成長をしてキャリアを形成していくことです。

	伝統的キャリア	プロティアン・キャリア
キャリアの所有者	組織	個人
価値観	昇進、権力	自由、成長
組織内外の移動の程度	低い	高い
成果	地位、給料	心理的成功
姿勢	組織的コミットメント	仕事の満足感 専門的コミットメント
アイデンティティ	組織から尊敬されているか (他人からの尊重) 自分は何をすべきか (組織認識)	自分を尊敬できるか (自尊心) 自分は 何がしたいのか (自己認識)
アダプタビリティ	組織に関連する柔軟性 (組織内での生き残り)	仕事に関連する柔軟性 現行のコンピテンシー(市場価値)

40年以上前に提唱された考え方なのに、今の私たちにすごくフィットすると思いませんか？組織内でのステップアップに重きを置いたこれまでのキャリアにかわり、地位や給与ではなく、自己成長や気付きといった心理的成功が目標となります。組織から与えられる評価ではなく、個人の中で感じられる仕事の充実感が何より大事なもの。「自分は何をしたいのか」「どうありたいのか」「社会に対し何ができるのか」という自己への意味づけがあれば、先行きが不確かな今の時代の大波小波も漕いで行ける。そんな思考のヒントになるかもしれません。

# My rules 私のルール

私の  
ルール  
1

## まずはとにかく動く！

新しいことを始めるのは怖いですが、不安な時は「注射するみたいなもの！」と自分を励みます。ちょっとチクっとするかもしれないけれど、一度動き出したらもう大丈夫！

私の  
ルール  
2

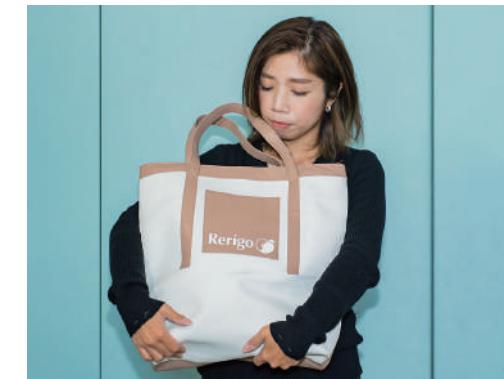
## 大きな目標を立てず、 コツコツ小さな目標を達成して 自信をつける

いきなり「100万円稼ぐぞ！」では挫けてしまうから、「まずは1万円の黒字を出そう」と小さい目標をコツコツクリアして自信をつけます。

私の  
ルール  
3

## 「あったらいいのに」は、 新しいことができるチャンス

「なんでないんだろう」と他人事にしないで、「じゃあ私が作ろう」と自分ごとにしちゃいます。さらに「一緒に作ろう」と周りを巻き込んで！



Part 2

## 伊藤優里さん

株式会社SORHENA 代表取締役

「もつたいない」をスペシャルに。  
「りんごレザー」の開発に奮闘中！

「あったらいいのに」をカタチに。  
自分で自分をプロデュース

「世の中には、『雇われること』を前提としたキャリア観がまだ多いと思うんです。でも、自分でできることは、自分たちの就労支援に向けて動き出しています。

「会社員時代は毎日が同じ繰り返しで、『このままで子供たちに生き方を教えられない』と思つてしまつたんです」

産休・育休を経て、フルタイムで仕事を復帰し、10年間会社員として働き続けた優里さんでしたが、自分の経験値を増やすためにも、好きなことをして生きていく！と決意し、まずは輸入雑貨の販売を始めました。

「いきなり会社を辞めず、副業からスタートしました。コツコツ売り上げを積み重ねて自信をつけました」

「商品があればいいのに」と思い始めた優里さんは、「ないなら自分で作ろう！」と、自社ブランドを立ち上げました。コロナ禍で輸入に限界を感じ始めた頃に参加した「サステナブル展示会」で廃棄されるりんごを活用した「アップルレザー」に出会い、「これなら長野でもできる！」とひらめきます。現在は、飯綱町を巻き込み、りんごレザーの開発に奔走中。これを機に「子育て支援センター i-work」と協力し、お母さんたちの就労支援に向けて動き出しています。

## 門前町の暮らしを楽しむ、町の編集者

企画編集室ナノグラフィカ

Part3

### 増澤珠美さん



お金を貰つて  
お仕事をこなすのは苦手。  
自分の伝えたいことを  
どう表現するかを大事にしたい

「自分たちが町で暮らしながら表現する  
場所を作りたかったんです」  
進学をきっかけに、門前エリアで暮らし  
始めた珠美さん。学生時代に仲間とともに  
ライブハウス「ネオンホール」を立ち上げ、  
「表現の場」を運営する傍ら、卒業後は養護  
学校講師との二足のわらじ生活に。  
「いよいよ両立が厳しくなった時に、『先  
生になりたい人はこの世にいっぱいいるけ  
れど、ネオンホールをやりたいのは私くら  
いしかない』と知ったんです」  
人が町を出て行ってしまうのは自分たち  
の発信力が足りないからかも、とネオンの  
仲間で企画編集室「ナノグラフィカ」をス  
タート。イベントや喫茶室の運営、町の風  
景冊子の発行、空き家見学会の開催など、  
幅広く活動しています。

「目の前のやりたいことやできることを  
やっているうちに、段々と評価されてきた



感覚です。逆に、ああして、こうして、と  
言われるお仕事はお断りしています」  
そうして町と関わってきた珠美さんは、  
子どもを「町の子」と捉えて出産や子育て  
をしてきました。  
「町には、子育てを経験した先輩たちがた  
くさんいます。町に子どものお世話をして  
もらうことで、この町が暮らしやすくなる  
ように、私も町のことをしていきたいです」

お金はあくまで  
コミュニケーションツールの  
一つとして考える

「幸せになりたい、面白いことをしたい」  
が生きる目的で、お金はあくまでツール  
だと考えています。

うまくいかないと感じたら  
関わる人たちを変えてみる

自分のしていることが評価されなくても、  
しぶとく続けながら、それまでと違う文脈の人たちと関わるように。そしたらだ  
んだん自分のしたいことやしていること  
が評価されるようになってきました。

つらい時は泣く！

辛いことを誰かに相談したくても、自分の  
気持ちをうまく伝えられなくて、結局ひとりでボロボロと泣きます。

「一つの企業の中で活躍するのもいいけれど、組織の枠を超えて社会と広くつながりを持ちながら仕事をしていきたいです」

学生時代は農学の研究をしていた慎子さんは、ですが、一つの分野に特化した研究職よりも、幅広い人・分野と関わりたいという思いから、卒業後は地元・長野の大手銀行に就職しました。多くの企業のサポートや地域コミュニティとの関わりのなかで、自分のやりたいことってなんだろう？なりたい自分はなんだろ？と考える機会が増えてきたそう。

「10～20年後の自分のなりたい姿をイメージしてみたら、『会社員』では無かつたんです。自分で決めて、自分で選べる生き方をしたかった。もつと自分の力を試してきました。

たくなつたんですね」  
そのなかで知ったのが「公認会計士」の資格。会社員として働き続けていくことに、このままいいのだろうか？と考えたところ、「会社員という枠から飛び出し、自分で身につけたスキルや経験で『個人』をレベルアップしたい！」と会社を退職し、現在は東京で勉強中。資格が取得できたら、また長野に戻って「自分」を活かして地域と関わりながら仕事をしていきたいと目を輝かせます。

「この道で合っているのかなと不安に思

うこともあります。でも、答えは行つた先

でしかわからないから前に進むしかない。  
選んだ選択肢を最適解にできるのは、自分

しかいないんです」

#### 資格は装備！

資格は、自分のスキルをアピールできる客観的な物差しになります。資格だけが全てではありませんが、新しいフィールドに進むための装備品を増やす気持ちで取得しています。

#### モチベーションを保つには、未来の自分をイメージ！

資格の勉強は地道な努力が必要なので挫けそうになってしまふときもあります。そういう時は、資格が取れた後の楽しそうな未来の自分を想像しています。

#### 周りと比べず、自分の軸を持つ

周りの人と自分を比べると、この道でいいのかな？と不安になってしまうので、選んだ選択を正解にするのは自分だと常に考えるようにしています。

自分で決めて、自分で選ぶ。  
選んだ道を正解にするのは私しかいない！

Part4 若林慎子さん

銀行員を経て、  
公認会計士を目指し勉強中！



私のルール  
3

教えてくれた人

上村遙子さん  
(かみむら ようこ)



Kawasaki-NEDO Innovation Centerのアライアンスプロモーター／  
株式会社天地人 事業開発リーダー／  
SUNDRED株式会社チーフエンジニア

挑戦者の活躍の場づくり、地域と都市部のオープンイノベーションを進めるべく、公的機関で研究開発型ベンチャー支援や、JAXAスタートアップで衛星ビジネスの事業開発を担当。  
SUNDRED株式会社では、社会起点で越境して価値創造していく人物像「インターパレナー」コミュニティをリードする。

“もっていたワタシ”を呼び覚ます

## インターパレナーって何？

会社に居続けることが正解？ タスクをこなし続けることが正解？  
本当に自分を活かしきれている？ もっと活躍できる場所は、  
いまの立ち位置から見えないところにあるかもしれません。  
社会起点で越境し価値創造していく人物像  
「インターパレナー」について、  
コミュニティをリードする上村遙子さんに聞いてみました。

インターパレナーとは、”社  
会起点で越境し価値共創をす  
る個人“のこと。つまり、自  
身が所属するコミュニティや  
組織などあらゆる境を超えて、  
多くの人と価値を共創したい  
と思う「個人」のことです。  
どんな会社で働いているかと  
か、どんな役職かは関係あり  
ません。

長く仕事を続けていると、  
会社の利益や目の前の業務に  
追われてしまいがち。さらに  
変化し続ける時代の中で、こ  
れまでの業界・会社のつなが  
りだけでも視野が狭くなつて  
ることに気づかず、身も心も  
がんじがらめで、気づけば社  
畜になつてた……みたいなこ  
とに陥つていて（笑）。でも、  
よくよく「なぜこの会社に就  
職したか」「なぜこの仕事をし  
ているのか」を思い返してみ  
ると、「こんな社会・環境にな  
ればいいのに（＝だからこの  
会社で働きたい）」っていう自  
分なりのミッションをもつてい  
るためのスタイルが「越境  
する」といふことです。副業、  
複業、転職がいいっていう事  
ではなく、外の世界（他分野）  
でのではないでしょうか？  
その想い（My Mission）を叶  
えるためのスタイルが「越境

とつながるんです。自分が持つ  
ているアセット（資源・資産  
や興味の分野を、多様な視点  
をませあわせることで、無理  
だと思ってたことに光が見え  
てくる。自分の知識やスキルつ  
て取るに足らないことって思  
う人は多いですが、じつはそ  
れが他の誰かにインスピレー  
ションをもたらすんですよ。  
Biotopeにいる人たちは、狭  
く考えていない、閉じてない  
なあつて感じます。いろんな課  
題に対して、「こんなこと、あ  
んなことができるよね」って、自  
分たちのアセットを引っ張り出  
してこようとする人たちで溢れ  
ている。そもそも、Biotopeの  
場にかかりたいって思つてい  
ること自体が、インターパ  
レナーの一歩です。これから、こ  
の場からどんなモノが生まれて  
いくのかすごく楽しみです。

インターパレナーの入口、/  
覗いてみませんか？



上村さんが  
ファシリテーションする  
「すんごい研究所（仮）」



インターパレナー  
Community  
Empowered by  
SUNDRED

